第11回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和6年8月28日（水） 10:00～12:00

○場 所：八幡市役所本庁舎 5階 会議室5-2

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

（1）次期総合戦略の策定について（1、2、3章）（資料1、資料1参考）

→事務局が作成した次期総合戦略案（1、2、3章）への意見等

（2）人口ビジョンについて（資料2）

→2040年の市人口を6万5千人以上とする現行の人口ビジョンについて、事務局の改定案を基に意見交換。

3 その他

（1）懇談会でいただいたご意見について

いただいたご意見について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

4 閉会

【主な意見等】

（1）次期総合戦略の策定について（1、2、3章）

第1章子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

<委員>

外国人の子どもに対する教育支援についての事業は実施しているか。

子どもが利用可能な学習スペースの確保が必要であると考えているが、状況はどのようになっているか。

具体的施策の(2)好奇心・探究心と夢を掴む力の育成②夢にふれる機会の創出について、事業が少ないと感じる。キャリア教育や郷土愛にも通じるものがあると考えているが、他に事業はないか。

<事務局>

外国人の子どもへの支援については、具体的施策の(1)③配慮が必要な子どもへの支援体制の整備に含まれると考えている。小中学校で実施している母語通訳者の派遣等事業等がある。

子どもの学習スペースについては、市内中学校区毎の確保に向け、教育委員会で検討をしている。

具体的施策の(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成については大事な取組であると考えているが、放課後子ども総合プラン等なかなか取り組めていないのが現状である。

<委員>

大学生を見ていると、日本人に比べて外国人の方がキャリアプランがしっかりしていると感じており、その点からもキャリア教育は必要ではないかと考える。

<委員>

具体的施策の(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成について、京都サンガホームタウンデー等スポーツ体験の事業のほかに、スポーツが苦手であったり興味のない子どもや女の子も体験できるような事業を実施してはどうか。

<事務局>

スポーツ以外の体験では、子どもわくわく教室で、茶道や将棋等の文化体験ができる事業を実施している。

<委員>

子どもへの教育については、学力のほか、様々な子どもが参加できる体験事業も充実させて欲しい。

<委員>

京都サンガホームタウンデーは、その場に出向く必要があることから、参加するのにハードルが高く、参加する子どもに限られると感じる。より多くの子どもたちが気軽に参加できるようなイベントが実施できたら良いと感じる。

<委員>

GIGA スクール構想推進について、教員のタブレットやソフトの使用において、レベル差があるのではないかと考える。教員に一定の指導レベルを習得させることが必要であると考えている。

<事務局>

ICT 支援員の配置や教員への教育も実施していると聞いている。

<委員>

市内不登校児童生徒の出現率について、年々増加している。

<委員>

不登校になる様々な事情がある中で、出現率の数値を出すというのは、適切であるか。不登校から復帰した数値を出してはどうか。

<委員>

物価が高騰する中で、教育費についても影響を受けている。給食費の無償化は、実施いただければ有難い。

第2章 健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<委員>

プレコンセプションケアについて、わかりやすい表現にしてはどうか。

<事務局>

繊細な内容であるため、具体的な表現を記載することは難しいと考えている。

厚生労働省からの少子化の一因として、海外に比べて、日本人の性教育が遅れていることがあげられていることに起因している。

<委員>

そもそも性教育は学校教育でしっかり学習すべき内容であると考え。また、性教育が遅れている一方で、性犯罪は増加傾向である。正しい性知識を身に着ける必要があると考える。

<委員>

健幸フェスタはどうなったか。

<事務局>

市全体としてスマートウェルネスに取り組むのではなく、小学校区毎の疾病の特性にあわせた、健幸マルシェという形で実施している。

<委員>

市民スポーツ公園利用者数や運動公園利用者数について何か変化はあるか。

<事務局>

懇談会后、市内・市外別で利用状況を把握できるか担当課と調整する予定である。

第3章観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

<委員>

基本的方向について、「イベントの造成」でなく、イベントに限らないという意味合いから「コンテンツの造成」に修正してはどうか。

<委員>

新たに追記した大阪・関西万博について、「～イベントの造成に取り組みます。」等の文言を修正してはどうか。

<委員>

八幡の観光と言えば、石清水八幡宮がイメージとして浮かぶ。石清水八幡宮に団体で来られる際のバスの退避所はどのような状況か。無ければ駅前にバスの退避所を整備してはどうか。

<委員>

バスの退避所は、駅前に整備されておらず、団体の観光客を案内し辛いのが現状。民間の駐車場を利用してもらおう等お願いしている。

<委員>

背割堤の活用状況はどうか。

<事務局>

八幡の外れにあるため、活用して来なかったが、桜の季節だけでなく、通年でにぎわいを創出するため、舟運を中心とした「かわまちづくり計画」に取り組んでいる。今年度の7月

に京阪HD、淀川河川公園、枚方市等と連携し、「淀川サマーフェスタ」を開催した。

<委員>

石清水八幡宮以外の観光地やイベントがイメージし辛い。また、例えば車が止められないため、橋本に行きたい人が行けない等、観光客の受入体制が不十分であることは、勿体ないと感じる。

<委員>

市長が八幡の紹介をする等、YouTube等を活用し、市のPRが必要ではないか。

<委員>

市内の他の観光地のイメージを根付かせるためには、広報が有効であると考えるが、主催団体等がイベント等の特性上、広報に積極的でないこともある。また、観光地が市内に点在しているのに、移動手段が乏しく、訪れにくいということもある。

<事務局>

移動手段として、7月に開催された「よどがわサマーフェスタ」で実証実験で電動キックボードを導入し、好評であった。引き続き、市内周遊をしていただくため、移動手段を検討していきたい。

<委員>

八幡ではたくさんの観光事業に取り組んでいる。それぞれが連携し、繋がれば良いと考える。

(2) 人口ビジョンについて

→事務局から、4つの市独自人口推計案を示した。事務局では2040年に目標人口を6万5千人とする現状の人口ビジョンと同値の推計④を提示した。目標の到達は、若い人や子どもが少ないこともあり、肌感では厳しいのではないかというご意見があったが、「チームやわた」として一丸となり、各総合戦略の施策を連携することが必須であるとしつつ、事務局案の推計④で賛同いただいた。